



R I. 第2620地区 静岡第2分区
三島西ロータリークラブ

週報

第1864号

事務所 静岡県三島市中央町4番9号 2F
TEL (055) 976-6351 FAX 976-6352
例会場 静岡県三島市本町14-31 みしまプラザホテル
TEL (055) 972-2122
会長 矢岸 克行 幹事 森崎 祐治



広重版画より 三島 朝霧

第1927回例会

2012.4.12晴

司 会

石井良衛君

ロータリーソング

「我等の生業」
指揮 瀬川幸信君

会長挨拶

会長 矢岸克行君

会員の皆様、こんばんは。

4月第2週、通常なら親睦例会ですが、今日は間近に控えた40周年式典の最終打ち合わせとの事でこのあと実行委員長のもとで細かく打ち合わせに入ります。

私達西クラブのメンバーは過去いずれの大会も立派に運営を行い、さすが西クラブだとお褒めの言葉をいただいて来ました。それも、クラブの特長である親睦を基調としたクラブ運営の賜物だと感じています。きっと多数のお客様を飽きる事無く式典そして懇親会にご案内すると信じてやみません。是非皆様の力を終結しての式典、共に頑張りましょう。

さて、もうひとつはここへ来て新しい会員さんが増えつつあります。増強委員会の皆さん、又多くの会員のおかげです。心より感謝申し上げます。新しい仲間がすぐに打ち解けて会の活動に積極的に参加される事をお願いし挨拶とします。

“こんにちは、ようこそ”

ゲスト 小野正博さん
(諏訪部(敏)・亥角・遠藤(正)君のゲスト)
前田博利さん(勝間田・平出君のゲスト)
川名正洋さん(勝間田・平出君のゲスト)
三田明宏さん(栗田・平野君のゲスト)

出席報告

	出席総数	出席率	メークアップ	修出席率
前々回	33/48	68.75%	44/48	91.67%
今回	40/49	81.63%	会員総数	51名

欠席者 岸田君、窪田君、小林君、鈴木(正)君、
諏訪部(照)君、千葉君、野口君、藤江君、柳田君

おめでとう

会員誕生日 土屋君
入会記念日 川真田君、米山君、伊丹君
奥様誕生日 瀬川君、土屋君、小野君、
亥角君
結婚記念日 平出君、橋本君

幹事報告

幹事 森崎祐治君

- ①新入会員について、新たに1名(三田明宏様)の入会調書が提出されこれまでの4名(前田博利様、登崎久夫様、小野正博様、川名正洋様)を加え計5名が理事役員会で審議の結果入会の承認がなされました。今後必要な手続きを進めてまいります。20日の式典ではガバナーよりバッジを付けていただく予定です。クラブの入会式は5月10日といたします。
- ②19日の例会は苗栗RCより市長も加えた24名の皆さんが出席され、姉妹クラブの再締結調印式を執り行います。本日はこの後20日の記念式典の最終準備の打合せの時間をとらせていただきます。

2011~2012年度
国際ロータリー会長
カルヤン・パネルジー

こころの中を見つめよう 博愛を広げるために



スマイルボックス

- ◆遠藤(眞)君、24年度安久町内会長に指名され頑張っています。ストレスがたまり毎日アルコール消毒をしています。
- ◆伊丹君、東京の孫達が4月15日(日)に竹の子狩りに来ると云う事で、楽しみにして優勝を夢見てたゴルフコンペを欠席させていただきます。当日は家族全員竹の子山でバーベキューを楽しむ事になりそうです。

理事会

〈承認事項〉

①苗栗RC41周年行事参加報告☒

予定した19名で24日の式典に参加して無事帰国した。

②入会者、退会者について☒

鈴木正能会員より3月末をもって退会の旨届けが提出され、勝間田委員長ほか慰留に努めたが様々な事情によりやむをえないと判断され退会が承認された。また3名の入会調書が提出され審議の結果、入会が承認された。☒

③40周年記念式典について☒

12日の親睦例会を式典準備の打合せ例会に変更することとした。☒

④その他☒

瀬川委員長より4月28日に米山梅吉記念館春季例祭開催の報告あり。☒

黒田副幹事より4月22日地区協議会(山梨)開催、10名で参加の報告あり。☒

卓 話

新聞ができあがるまで&記者の仕事

静岡新聞社 三島支局長 風間ほえみさん

私が働いております静岡新聞は昭和16年に創刊いたしました。当時の政府の1県1紙統制を受け、県内6紙が合併してスタートしました。創刊70年となり、三島市制と同じ時を刻んでおります。本社は静岡、このほかの記者の拠点は沼津、浜松、東京にございます。支局は県内に24と愛知県は豊橋にあります。記者はざっくりと100人ちょっとおり、このうち女性は1割程度です。これまでのところ女性の支局長は私ひとりですが、今後は増えてくるかと思ひます。私が現在おります三島支局では後輩の男性記者1人と2人体制で働いています。担当是三島市と函南町で、事件、スポーツ、政治、経済、地域の話題な

ど基本的にジャンルを問わず、すべてを対応します。

では新聞ができあがるまでを話をしてみます。

記者が取材して記事を書き、それを本社にいる「デスク」がチェックして、「整理記者」と呼ばれる人間が見出しをつけ、紙面レイアウトします。完成した紙面はデスクが最終チェックし、印刷、配送となり、朝刊・夕刊をお届けいたします。お手元に配布した資料は、実際に新聞ができあがっていく過程を時間を追って示したものです。「静岡新聞」の題字があるほうをご覧ください。これが一面で、新聞の「顔」です。その新聞社が、読者に一番読ませたい記事を持っています。どの記事をどの紙面に持っていく、どのくらいの大きさで報じるか、その判断をするのが「デスク」です。この日の一面の中央には、大王製紙の関連会社「大宮製紙」の臨時株主総会の記事があります。取材と写真、記事は私が担当しました。大宮製紙は富士宮市に本社がある会社ですが、どうやら富士宮と東京の中間地点という理由で、三島で臨時株主総会が設定されたようです。日経新聞をはじめ東京の中央紙やテレビ各社の記者が新幹線に乗って取材にきました。

もう1つのほうの資料は「社会面」と呼ばれるものです。昔の名残で三面記事と呼ばれることもありますが、紙面では「花形」とされています。真ん中にある熱海の旅館火災の記事をごらんください。大きな火災で、三島支局からも熱海に応援取材にきました。4コマ漫画の下には柏崎刈羽原発の発煙の記事が入っています。

例えばものすごく大きなニュース、大災害が発生したとか、著名人が亡くなったとか、そういう記事が入ってきたら、まず1面にいきます。そうして1面からあふれた記事は社会面に持ってくる、社会面にあった記事は隣のページに移す。だいたいこんなふうに紙面を作っています。

私たち記者の仕事は、紙面作りの緒になる部門です。記者は誰でも、自分の書いた記事が大きく扱われたいと思っています。でもまずは本社のデスクや整理記者を納得させる記事を書かねばなりません。そのためには「特ダネ」を狙う、というのは1つのセオリーです。早く、正確に、他社にない記事を書くということを1つの目標にして取材活動をしています。取材したけれども、掲載できない・掲載しない話題や写真もたくさんあります。

以上、ざっぱくですが、私の話を締めくくらせていただきます。速報性その他、新聞が他メディアにはかなわないところは周知のとおり、たくさんありますが、ただ取材という手法はアナログですので、そこに頑張れる余地はあるかなと思っています。

まだまだ足りていませんが、今後も皆さまの役に立つ情報、読みたい記事を提供していきたいと思っております。それには日ごろの皆さまのおつきあいや、情報提供が命綱です。どうぞこれからも、厳しく、温かく、静岡新聞をよろしく願ひいたします。

(週報担当：佐々木雅浩)